

2021年9月1日

船橋二和病院グループの施設ご利用中の皆様へ

新型コロナウイルス感染症感染拡大に対し災害対応として取組みます

船橋二和病院  
院長 松隈英樹

## 1. 新型コロナウイルス感染症感染拡大期における「医療逼迫」の状況について

### (1) 市中の感染状況

新型コロナウイルス感染症は、感染症専門家の予想をはるかに超えるスピードで、市中での感染爆発が起こっていることはご存知のことと思います。呼吸困難を訴える患者も急激に増加しており、自宅待機での療養、ホテル宿泊施設での療養はすでに限界に達しています（県内での自宅療養者は8/31日現在12,000人を超えています）。

保健所の機能不全（体調不良者からの電話が通じず、医療機関への直接の電話・受診が急増など）、救急対応の制限も一部起こっており、医療崩壊に陥りつつあります。

### (2) 救急医療の逼迫

この間のテレビなどの報道にもありますが、救急車が連絡を受けても、何時間も搬送先が決まらず、立ち往生することが多くなっています。それは、ここ船橋市、近隣の鎌ケ谷市、白井市などでも起こっています。更に急変した他の患者さんからの連絡が消防署の救急隊へ入っても救急車が出払っており、出動すら出来ないという事態も起こっています。

当院の救急外来へも、自宅で療養されている新型コロナウイルス感染症患者在救急車で搬送され、外来の処置室で対応せざるを得ない事態も頻発しています。その場合、感染対策から他の救急車の受入をストップせざるを得ない事態となります。

船橋二和病院は、船橋市内で小児科の入院ができる二つの病院のうちの一つです。小児救急については、二次救急病院としての役割を困難な中ではありますが、維持できるように対応しています。

### (3) 新型コロナウイルス感染症対応病棟の医療内容の一部縮小について

新型コロナウイルスに感染しても、すぐに医療機関に入院が出来ないことで、病状がかなり悪化してから入院となるため、私共医療機関の職員も当初予定していたよりも多く配置しなければならず、準備した病床すべてを利用することは困難な状況となっています。

船橋二和病院は「中等症Ⅰの患者」を受け入れるとしておりましたが、「中等症Ⅱ」の対応を日々迫られている状況です。更に悪化した場合、転院先の重症者のベッドが満床

となっているため、転院も困難な状況が続いております。

当院では、一般病棟の医療活動縮小を決定し、看護師や技術者の支援を行っています。

船橋二和病院だけでなく様々な医療機関において、新型コロナウイルス感染症以外の医療活動を大幅に制限せざるを得ない事態となっています。ふたわ診療所において、水曜日・金曜日に行っている夜間外来の当面の休止、9月中の緊急以外の手術や内視鏡検査の延期、白内障手術の延期等、ご利用中の皆様にご迷惑をお掛けすることとなりますが、災害時対応としてご理解いただけますようお願いいたします。

## 2. 新型コロナウイルスワクチン接種の取り組みについて

新型コロナウイルスワクチン接種については、心待ちにされている方も多くいらっしゃると思います。現在は、船橋市が前週の実績をもとにワクチンを確保できている状況ではありますが、供給が不安定なことに変化はなく、今後ワクチン供給がどのようになるのか全く予想がつかない状況です。

ご希望いただいている地域の皆様方へはご迷惑をおかけいたしますが、引き続きワクチン接種が進められるよう対応を検討しております。新たな情報が入り次第、ホームページ等で随時お知らせいたしますので、ご確認いただけますようお願いいたします。

## 3. 今後の医療活動のあり方について

一般の医療活動への影響を最小限に留められるよう対応を検討しますが、職員の中にも家族が陽性者となり、職員が濃厚接触者となったために出勤できない例も多発しています。職場体制が維持できないことも今後起こり得ると考えております。

また、これ以上の感染拡大が起こった場合は、これまでの医療活動の維持が困難になる場合もあり得ると判断しています。地域の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、災害時の対応としてご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

以上